



2019年1月1日、新しい年が始まりました。一時退院している夫を家に残し、私は横浜港南台教会の元旦礼拝に参加しました。年頭に次の御言葉を与えられました。

「今や、恵みの時、今こそ、救いの日。(11 コリ 1:2)」

神が私どもを恵まれ、救われる日、それは神が御子イエスを与えてくださる日です。どのような試練や苦難の中にあっても、主イエスに信頼し、従う日々が与えられています。これこそ、私たちの救いであり、恵みです。感謝を捧げました。



今年の年賀状に夫が選んで記した言葉は「光は暗闇の中で輝いている。(ヨハネ 1:5)」です。

「暗闇の中に、イエス・キリストにおいて、私たちが照らす神の光は変わることなく、輝いています。時代の暗さに抗して、キリストの光を掲げたいものです。」と書き添えました。世界にも、時代にも明るさを見つけるのが困難です。夫本人も、思いがけずに大病を患って苦しみました。けれども、イエス・キリストが共にいて下さり、試練を忍耐しながら、新年を迎えました。イエス・キリストこそ、全てを照らす光です。イエス・キリストによって、希望を失うことはないのです。

夫の5回目の抗がん剤治療が12月29日に終わりました。血液の量、質ともに減少するのをカバーする血小板の輸血を受けて、翌日に退院することが出来ました。年末年始ということで、自宅で療養が出来るように計画してくださったのです。もともと、駒込病院はがんの治療もできるだけ、通院しながらすることを目指しています。治療は日進月歩で進み、患者の負担も軽くなり、普通の生活を送ることで、健康度が高まるのでしょうか。

夫は抗がん剤の効果が出て、腫瘍マーカーとなるLDHの値が基準値内を保っていることにより、危機を脱したのではないかと言われました。これは5回目の治療を受けている時に担当医からお聞きしたことです。「バーキットリンパ腫は日、週単位で増殖し、肥大化すると内部で腐り、腸管で穿孔が起きる危険性がある」ため、治療を急ぐ必要があったということでした。腫瘍はとても小さくなっているようです。主治医も6回目の抗がん剤治療が終わった段階で、検査をし、さらに抗がん剤が体内から抜けた頃に再検査をして、その結果で治療は終了となるでしょうと言われました。それを聞いて、ドクターに心から感謝しました。



大みそかに、軽めにお掃除をし、杵築教会の先輩から送られてきた「モチノキ」を飾ると、お正月らしくなりました。また、日本人の縁起担ぎの食習慣である年越しそばやお節料理などをバタバタと準備しました。孫たちも祖父母の家で会食することを楽しみしていますので若者が好みそうな洋風のお料理も頑張って作りました。

今年は自宅でお正月を祝うのは無理だろうと思っていましたが、夫は時々ベッドで休みながらも、具合悪くなることもなく、三が日を過ごしました。味覚障害が治まってきて、「美味しい」と言います。食欲もあります。従って、体重も僅かずつ増加してきました。とても嬉しいお正月になりました。夫は年賀状に「桜の咲く頃には元気になるでしょう。」と記しました。それを願っています。エルミタージュの窓辺から、桜が眺められる春を楽しみに。